

# ぎかいの木

## CONTENTS

12月定例会の審議…………… P2～3  
常任委員会審査報告……………P4～5  
一般質問……………P6～12  
所管事務調査報告……………P13～14  
議会のうごき……………P15  
議会報告会……………P16～18

NO.77 令和5年2月1日号

12月定例会などの内容をお伝えします。



### 秋田内陸縦貫鉄道 全線運行再開

令和4年8月の豪雨で甚大な被害を受け、一部区間でバス輸送を余儀なくされていましたが、応急的復旧工事が完了し、令和4年12月12日に全線運行を再開しました。



○職員の定年の引上げに伴う関係条例の整備等に関する条例の制定について

○北秋田市一般職の職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例の制定について

○北秋田市特別会計条例の一部を改正する条例の制定について

○北秋田市過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法の適用に伴う固定資産税の課税免除に関する条例の一部を改正する条例の制定について

○北秋田市子育てサポートハウス条例の一部を改正する条例の制定について

○令和4年度一般会計補正予算

○令和4年度各特別会計補正予算

○令和4年度各事業会計補正予算

○秋田県及び北秋田市における生活排水処理事業の運営に係る連携協約の締結に関する協議について

○指定管理者の指定について  
（小森自治会館／中村地区コミュニティセンター／ことぶき荘／地域福祉センター／もろびこども園／フードセンターたかのす／障害者生活支援センター／妖精の森）

専決第9号 一般会計補正予算  
消費税申告義務違反の関連予算

初日の冒頭、市長が陳謝

今定例会初日の冒頭、津谷市長から市内診療所における消費税申告義務違反について発言の申し出があり、これまでの経緯等を報告し、最後に「今後、このようなことが起きないように、再発防止に努めていく。市民の皆様には心よりお詫びを申し上げます」などと陳謝しました。

議員から多くの質疑

このあとの議案提案では、消費税未申告に係る消費税及び延滞税等の予算（専決）の承認を求める議案の説明があり、議員から多くの質疑がありました。その中で「これから商店をはじめ、市民に大きく影響してくるインボイス制度が始まるときに行政にこういったことがあっては市民に示しがつかない。市民に対しては、この場だけでなく、広報やホームページ等でも報告と陳謝をすべきと考えるがどうか」との質疑があり、市長は「市民に対し、たいへん申し訳ない事態が発覚したわけなので、さまざまな形で、市民の方々にお知らせ、お詫びをする方向を考えていきたい」と答弁しました。

皆さまからの請願・陳情と意見書提出

件名	請願・陳情者氏名	結果	意見書
安全・安心の医療・介護実現のため人員増と処遇改善のため国に意見書提出を求める陳情	秋田県医療労働組合連合会 執行委員長 三浦 耐子	採 択	提出
医療・介護・保育・福祉などの職場で働くすべての労働者の大幅賃上げのため国に意見書提出を求める陳情	秋田県医療労働組合連合会 執行委員長 三浦 耐子	採 択	提出
介護保険制度の改善を求める陳情書	秋田県社会保障推進協議会 会長 佐藤 幸美	採 択	提出
学校部活動の地域移行に関する陳情書	加賀屋 俊悦	採 択	提出
「消費税インボイス制度の実施延期を求める意見書」を政府に送付することを求める陳情書	秋田県商工団体連合会 会長 小玉 正憲	採 択	提出
公共建築物における木造化及び木材利用整備促進の陳情	秋田スギネットワークたかのす 会長 藤島 二三夫	採 択	—
再生可能エネルギーを使った地方の人口減少に歯止めをかける仕組み作りを求める陳情	生き物共生農業を進める会 代表 今野 茂樹	採 択	提出
米余りを解消し、食料自給率を高めるために水稻収穫量調査の基準見直しを求める陳情	生き物共生農業を進める会 代表 今野 茂樹	採 択	提出

## 総務文教常任委員会 原油高騰に伴い各施設で増額補正

【委員長】小笠原 寿 【副委員長】五代儀義富 【委員】福田牧子／堀部 壽／板垣 淳／佐藤文信

当委員会に付託された案件は、条例案5件、予算案3件、陳情1件でした。

一般職の職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例の制定についての審査では、委員から「会計年度任用職員の手当を上げない理由は」との質疑があり、当局は「会計年度任用職員は、給与に増減があっても遡及しない取り扱いになっている」と答弁。答弁に対し、委員から「同じ職場の仲間でありながら、職員と議員だけが上がるということに、これでいいのかという思いがある。何らかの配慮をすべきでは」との意見があり、当局からは「昨年まで職員は下がっていたが、会計年度任用職員には適用していない。どのような取り扱いが良いのか議論の余地はあると考える」との答弁がありました。

令和4年度一般会計補正予算は、主な内容が職員の給与及び原油価格高騰に伴う燃料費と光熱水費の補正でしたが、審査の中で委員から「コムコムの電気料金の増加割合が他の施設を大きく上回る。市全体としても値上がり幅について確認する必要があるのでは」との質疑があり、当局からは「施設間の値上がり幅の差については、確認しておきたい」との答弁がありました。



各施設とも燃料費等の支出増

## 市民福祉常任委員会 激甚災害と指定された自治会に補助

【委員長】佐藤重光 【副委員長】三浦倫美 【委員】虻川 敬／佐々木正史／中嶋洋子／佐藤光子

当委員会に付託された案件は、承認4件、条例案2件、予算案6件、単行議案7件、陳情3件の計22件でした。

令和4年度一般会計補正予算の審査では、委員から「自治振興費の環境整備事業補助金について、激甚災害と指定された期間に被害を受けて、この補助事業を使う予定の自治会はまだあるのか」との質疑があり、当局からは「各自治会から8月の豪雨災害についての相談を受け、今確認しているのは3自治会。補正では金額が確定した1自治会については、今後協議を進め、新年度に間に合えば対応したい」との答弁がありました。

市内3診療所での消費税申告義務の違反について、委員から「納付前に臨時議会を開けなかった理由は。また、納付義務に気づけなかった理由は」との質疑があり、当局からは「延滞税が日割りで加算されていくため、1日も早く納付する必要がある、議会を招集する猶予がなかった。気づけなかったのは、認識がそもそもなかったことが最大の原因」との答弁がありました。



コロナワクチンの接種券

## 産業建設常任委員会

## 8月豪雨の災害対応は万全か

【委員長】杉淵一弘 【副委員長】松橋久敏 【委員】永井昌孝／福岡由巳／久留嶋範子／長崎克彦



早期の災害復旧を

当委員会に付託された案件は、条例案1件、予算案3件、単行議案2件、陳情4件の計10件でした。

令和4年度一般会計補正予算、産業部農林課関連では、委員から「災害対応にあたっては、産業部農林課関連では、委員から「災害対応にあたっては、職員の間外勤務の状況は」との質疑があり、当局からは「災害復旧の時間外は、月100時間を設定している。人員不足については、他の部署から経験のある職員4名を応援要請し、全力で災害復旧にあたっている」との答弁がありました。また、「今後の災害査定により、小災害になるものもあると思うが、今回の予算枠で、その対応は十分なのか」との質疑に、「先の予算と今回の予算で対応でき

るものと見込んでいます」との答弁がありました。

次に、鳥獣被害防止総合対策交付金について「今年度の猟友会の実績は。また、イノシシの目撃等が多くなっているが対策はどうか」との質疑に、「9月末現在でクマやニホンザル等の檻の設置・撤去に延べ526人。それに伴う捕獲活動で5732人。緊急時の口頭での捕獲許可が23人である。イノシシ対策については、檻を設置してもなかなか入らないため、猟友会員に『くくり罠』の免許を取っていただき、今年度は、くくり罠で11頭捕獲している」との答弁がありました。

商工観光課関連では、森吉山荘の広告料について「観光業界に特化した専門誌への掲載とのことだが、発行部数と掲載時期は」との質疑に、「発行部数は5万9千部、時期は1月中旬から下旬と考えている」との答弁がありました。

以上のような審査を踏まえ、全会一致で原案のとおり可決すべきものと決しました。

(委員長 杉淵一弘)



### 第2回

## 市議会全員協議会

- ・ 地域防災計画の改訂について
- ・ 森吉山荘について



第2回全員協議会が、11月8日に開かれ、地域防災計画の改訂と森吉山荘について協議をしました。

### —地域防災計画の改訂について—

市の地域防災計画は、市と関係機関で組織する北秋田市防災会議が平成20年3月に策定し、平成27年2月には国の防災基本計画の改正等により全面改訂を行っています。

このたびの改訂は、災害対策基本法の改正に伴い、県の地域防災計画や災害関連ガイドラインなどと整合性を図るために行うもので、当局からは新たに『火山災害対策編』や『指定避難所における感染症対策』を追加したこと、避難情報の名称を変更したことなどが説明されました。

### —森吉山荘について—

現在、休止中の森吉山荘の営業再開に向け、建物の無償譲渡について説明がありました。

譲渡条件として、最低5年間は営業すること、契約保証料として解体費相当額を納付することなどの条件を設定する一方で、土地代や温泉の分湯料、再開に必要な修繕料を補助することとしています。

議員からは「契約保証料の予定額は」との質疑があり、当局は「1億円程度見込んでいます」と答弁。また、「応募者がいなかった場合はどうなるのか」との質疑に「今は事業継続するために取り組んでいる。応募がなかったときに考えたい」と答弁し、今後の事業方針について理解を求めました。

## 活かそう市民の声

# 市政を問う！ 一般質問

一般質問は、12月12日・13日の2日間で行われ、12人の議員が登壇しました。

### 虻川 敬 議員（P7）

- ◆市内企業・市内経済の活性化について
- ◆行政サービスの拡充について
- ◆デジタルトランスフォーメーションについて
- ◆伊勢堂岱遺跡について

### 久留嶋 範子 議員（P7）

- ◆物価高騰対策について
- ◆民生委員の担い手不足について
- ◆子どもの登下校時の安全確保について

### 佐藤 重光 議員（P8）

- ◆被害施設、農地の早期復旧対策について

### 杉淵 一弘 議員（P8）

- ◆農業政策について
- ◆空き家対策について
- ◆学校教育の充実について

### 佐藤 光子 議員（P9）

- ◆通学について
- ◆子ども・子育て支援事業について
- ◆コミュニティ交通について

### 福田 牧子 議員（P9）

- ◆地域振興について
- ◆高齢者福祉について
- ◆地域防災対策について

### 永井 昌孝 議員（P10）

- ◆空き家対策について
- ◆公共施設（遊休施設）について

### 福岡 由巳 議員（P10）

- ◆大野台ハイランド憩の森の整備について
- ◆森吉山県立自然公園の国立又は国定公園への格上げと公園利用の推進について
- ◆オオシラヒゲ草と口曲がり地蔵について
- ◆教員住宅の環境整備について

### 三浦 倫美 議員（P11）

- ◆市営住宅について

### 板垣 淳 議員（P11）

- ◆森吉山荘について
- ◆学校統合について
- ◆図書事業について

### 佐藤 文信 議員（P12）

- ◆予算概要版について
- ◆少年議会について

### 長崎 克彦 議員（P12）

- ◆北秋田市地域公共交通計画策定について
- ◆不稼働資産（土地、建物）について

虹川 敬

(新創会)



地域経済の活性化を

**Q** 消費人口を上げるためには、外部から消費者を増加させるべきではないか。市ができる事は無いか。  
**A** リモートワークやワーケーションといった働く場所にこだわらない方々に来ていただく事で、関係人口の創出や消費活動の活性化につながるものと考えており、今年度中に市民を対象にした勉強会、宿泊事業者を含む観光事業者向けセミナーの開催を計画している。また、宿泊施設の少ない本市を周遊してもらうための地域ぐるみでの取組や滞留型観光を推進していく事で、消費人口の拡大につながるものと考えている。



高速交通網を強みに

うな関係性を活かし、安定的な地域消費を喚起するためにも、固定人口の増加のための子育て環境の更なる充実、税制優遇なども充実させてベッドタウン宣言をして取り組んではいかがか。  
**A** 宣言はしていないが、当市は交通の利便性が良いので、仕事先が近隣であっても、住むところは北秋田市にしていたきたいと考えている。企業誘致が促進すると、当市から人口が引き抜かれるのではないかという心配もある。ベッドタウン宣言するだけではなく、基盤整備もしっかりやっていかなければいけないと考えている。当然、地元企業には人口が流出することの無いように企業努力を重ねてほしいと考えている。

久留嶋 範子

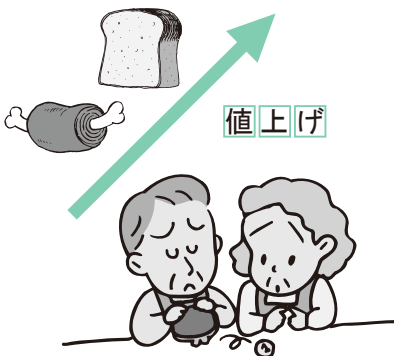
(日本共産党議員団)



燃料価格や物価

高騰への支援策を

**Q** ガソリンや灯油価格の高止まりが続いている。さらに春にかけて食品の値上げが再加速する。市民の暮らし応援の第2弾として、全世帯に灯油やガソリンに使える燃料券の配布の考えは。また、非課税世帯への福祉灯油の拡充はできないか。



春にかけても値上げ再加速

**A** 市民応援チケット事業は、灯油やガソリンに限らず、市内の多くの店舗で利用できる。エネルギー食品価格高騰対応緊急助成金などを実施しているため、現時点では非課税に対する福祉灯油の拡充は予定していない。  
**Q** 3年に一度の改選時期にあたり地域の「見守り役」としての民生委員の不足をどう考えているか。今後の対策は。  
**A** 市全体で30人が欠員となつている。今後も地区の自治会や民生委員児童委員協議会の協力を得ながら欠員解消に努めていきたい。  
**Q** 静岡県の認定こども園での送迎バス置き去り事件や、スクールバスに置き去り等が相次いでいる。当市ではどのような対策を考えているか。  
**A** スクールバスの終点となつている6小学校には、車内に取り残された際に児童自らが危険回避の対応ができるよう、バス利用の児童全員にクラクションを鳴らす体験学習を実施するよう要請している。  
**Q** 冬期間になり、通学路の安全確保は十分か。  
**A** 除雪を行う道路管理者との情報共有を図りながら取り組んでいく。

佐藤 重光

(新創会)



QRコード

農地の復旧見直しは

**Q** 8月の大雨により、米代川の氾濫、流木や土砂が水田に流入するなど、甚大な被害を受けた。

**A** 冠水被害を受けた農地面積は、8月の豪雨による冠水面積は、水稲を作付けしている農地が596ha、大豆、ソバなどの畑作物を作付けしている農地が、48haの計644haとなっている。



広大な農地が冠水

**Q** 農地、ため池、揚水機場の浸水、農業用施設などの被害件数は。

**A** 国の災害復旧事業の対象となる農地が51件、農業用施設が74件の計125件となっている。

また、小災害支援事業の対象となるのが、農地は131件、農業用施設が112件の計243件で、2つの事業を合わせると368件となっている。

**Q** 来年の作付けを考えると復旧工事を急ぐ必要がある。

災害復旧工事の本格的な工事の見直しはどうか。

**A** 災害復旧事業の国による査定が11月7日から始まり、12月23日までの予定となっていることから、工事発注は1月下旬ごろを予定している。

市としては来春の作付けに間に合うよう努力していくが、被害規模が大きい「ため池」などについては、復旧が来年度となる見込みとなっている。



杉刈 一弘

(新創会)



QRコード

肥料高騰に対する市の支援を

**Q** 水田活用の直接支払い交付金の見直しの対応と、耕作放棄地への対策は。

**A** 農地の集約化等に向けた取組を加速化していくことが、この地域の課題と捉えており、目標地図を作成しながら、地域農業の将来像となる地域計画の策定に取組んでいく。

**Q** 農業用肥料高騰対策としての支援は。

**A** 国は高騰分の約7割をJAなど販売会社を通じて助成を行うこととしており、申請受付を市が担う。市独自の事業として、主食用はもとより飼料用米など、すべての水稻種子購入者に2分の1を助成し支援する。引き続き営農継続でき形で対策を強化していく。

空き家問題の現状は。

**Q** 平成30年度空家等実態調査を実施してから、同様の調査は行っていないが、住民や自治会長からの相談や苦情、情報提供等により、現状確認を行い、危険度変更を行い管理台帳を整備している。

**Q** 倒壊家屋等除去推進の考えは。

**A** 他自治体の情報収集や自治会等の意見を伺い検討する。

**Q** 不登校の現状と課題は。

**A** 令和元年度から令和3年度の不登校の児童生徒の推移は、県の出現率を下回っている。最近ではゲーム等での生活リズムの乱れから、不登校につながっている。家庭や医療機関と連携して、生活改善をしていく。



営農継続に向け支援を



佐藤 光子

(未来きたあきた)



冬期のスクールバス  
乗車基準緩和を

Q スクールバス等の乗車率は。

A スクールバス及びスクールタクシーの乗車定員に対する利用者割合は、平均で70.3%となっている。

Q 県内の全市町村が豪雪地帯に指定されているが、積雪期の通学対策として、冬期にスクールバス等の利用基準を緩和する市町村がある。当市での基準緩和の方向性は。

A 車両が不足することや、子どもたちの体力づくりの観点から、現状では基準緩和は難しい。しかし、今後一層少子化が進んだ際には、保護者や地域住民等との協力や連携を図り、研究していきたい。

Q 新型コロナウイルスによる影響で、学校のクラス閉鎖や保育園等の閉鎖が相次いでいるが保護者やその職場等への支援体制は。

A 保護者の理解と協力を得ながら、感染拡大を抑え、なるべく保護者に負担がかからないよう対応している。閉鎖など実施した場合の保育料や副食費は保護者へ返還している。

Q ファミリー・サポート・センター事業(送迎サービス等)について。  
A 今後実施するニーズ調査や北秋田市子ども子育て会議等において、試験的な取組について研究していく。

Q 住民共助による交通手段の確保、有償ボランティアによるコミュニケーション交通の導入について検証、検討をしてみる考えは。

A 慎重に検討を重ねなければならぬが、引き続き協議会において議論し、実現に向け、スピード感を持って取り組んでいく。



共助による送迎支援車(横手市)

福田 牧子

(公明党)



高齢者の命を  
守る施策を

Q 地域おこし協力隊の効果は。

A 今まで延べ16名、任期を終えた9名中、6名が定住。任期終了後も北秋田市をPRし、支援を継続され、効果を高く評価している。

Q 募集の視点は。

A 市が目指す将来像に沿って募集している。

Q 基幹産業である農業の担い手不足、耕作放棄地の課題解決に農業分野の協力隊は。

A 自治体関与型事業承継支援モデルに認定。その形で後継者募集を行なっている。

Q 高齢者認知症のいわゆる徘徊は、本人は目的を持っているため、止めることは困難、帰り道がわからなくなる、転倒のリスクがあると考える。市の施策は。

A 「北秋田市お出かけ安心シール」の啓蒙をしているが登録者は5名。ポケットティッシュにチラシを入れて周知に努めている。阿仁前田地域で「チームオレンジ」を設置、認知症になっても在宅生活を地域が支える取り組み。



お出かけ安心シールの啓発チラシ

Q 高齢者福祉施設の慢性的な入所待機状況への施策は。

A 令和4年4月の特別養護老人ホームの待機者は126名、新たな施設整備は次期計画で検討する。

Q 大災害時の高齢者の犠牲者は全体の半数を占め、障害者は被災住民全体の2倍。指定福祉避難所には、必要な物資・機材の備蓄のほか、調達先との協定を締結する。とあるが。

A まだ、指定福祉避難所が設定できていない。協定は結んでいる。

永井 昌孝

(未来きたあきた)



### 空き家の利活用と 空き校舎の利活用

**Q** 空き家の現状について、空き家バンクの登録数が現在8件だが、どのように活用していくか。

**A** 制度が始まった2015年度からの累計で36件、そのうち23件が成約に至っており、これ以外にも民間業者を介し取引されている。移住者住宅取得支援事業や住宅リフォーム支援事業の実施により、空き家等の利活用と移住定住の促進を図っている。制度の周知については毎年、固定資産税の納税通知の送付の際に制度に関するチラシを同封し周知を図っている。

**Q** 空き校舎の利活用について

**A** ワークションやリモートワークの拠点として大変有効である。地域の活性化や異業種交流の場として産業振興に結びつくものと認識している。事業者自らが改修するのが望ましいが、事業者とのマッチングや誘致活動を展開し、空き校舎の利活用に取り組む。

**Q** 旧鷹巣中央小学校校舎の体育館をエクストリームスポーツ施設に。

**A** 現在は体育館を整備する計画はないが、スケートボードやBMXなどのエクストリームスポーツが近年若者に人気の高いスポーツと認識している。当市の競技者や愛好者の実態把握に努め、安心、安全のためのルールづくりと団体等の組織化が重要だ。市民を対象としたスポーツ推進に関する意識調査をもとに審議会にはかり若者定住、にぎわい創出など、スポーツを楽しむための環境整備を含め研究する。



空き校舎となっている旧鷹巣中央小

福岡 由巳

(無会派)



### 大野台ハイランド 憩の森が放棄地に

**Q** 大野台ハイランド憩の森は、市の管理ながら放棄地同様になっている。早急に整備すべきでないか。

**A** 運動広場や緑地広場を利用して、いることから維持管理に努める。

**Q** ハイランド体育館は、条例では「福祉と健康増進」のため設置するとある。物置にしたり、雨漏りを放置したのは条例違反である。



市は体育館を解体と答弁

**A** 維持管理費等勘案して難しいとして解体を予定している。

**Q** 条例14条には「使用者が体育館の使用を終了した時は、直ちに原状に回復して返還しなければならぬ」とある。当局が条例違反、かつ雨漏り放置で無残な形にした。

**A** 現状では回復は難しい。

**Q** 環境省は6月14日、国立公園の拡張や国定公園の新規指定地域の候補を発表し、森吉山も候補地として選定した。格上げされることは待ち望んだ機会であり、市が先頭に立って実現すべきでないか。

**A** 候補地に選ばれたことは誇りに感じている。今後の活動や取組について検討していきたい。

**Q** もう検討している時期ではない。新たな段階にあり、名乗り上げたところから進めるといふことであるから早く動くべきではないか。

**A** 森吉山も国定・国立公園にと発信していくのでお願いする。

**Q** 森吉山荘の無償譲渡案は、温泉水の安定供給など応募すべき事業者に厳しい条件であり、応募者は期待できるのか。

**A** 運営ノウハウを有する民間事業者にまずは募集を進めたい。

三浦 倫美

(日本共産党議員団)



市営住宅維持管理の予算拡充を

**Q** 市営住宅の補修、改修、建替えの実施基準や住民要望の把握は。

**A** 令和2年4月に改訂された「北秋田市公営住宅等第2期長寿命化計画」に基づき「予防保全型の維持管理」を実施しており、全入居者に「すまいのしおり」を配布し、各種対応に関する周知を図っている。水回りの不具合や機器の故障、雨漏りや建具の不具合等、入居者からの通報等に都度迅速な対応を心がけている。軽微な修繕は、今年度140件ほど要望があり、100件以上対応し、現在進行形が39件ほど。屋根の塗り替え等の大規模修繕は「長寿命化計画」を基に、長期計画で順番に行っている。建替え移転の対象となる方には、2年以上前から説明会を開催し、

入居者の声を十分に聞きながら事業を進めている。

**Q** 空き住宅の維持管理の現状は。

**A** パトロールや毎年の管理日程に基づき、草刈りや雪下ろし等の対応を行い、近隣住民からの情報提供にも迅速な対応を心がけている。

**Q** 市営住宅維持管理予算の拡充を。

**A** 住宅の使用料と国からの補助金「家賃低廉化交付金」を充てることを基本としており、交付金の制度を計画的に運用し、現在2千万円以上の維持管理費、大規模修繕ができる状況であり、「長寿命化計画」に基づく住環境整備を行っている。要望にも都度対応し、入居者の方にご不便をかけないよう心掛けており、現時点では予算の拡充は考えていない。



市営住宅住民要望の把握は

板垣 淳

(日本共産党議員団)



森吉山荘再開へ「全力」

**Q** 森吉山荘は奥森吉の観光に欠かせず、市の条例で設置されている施設でもある。したがって本来は市が運営すべきだが、再開されるのであれば、この際、民間であっても歓迎する。利用者にとってみれば閉鎖と営業では、天と地の違いだから。市長は「必ず再開させる」

という強い決意を表明していただきたい。

**A** 運営ノウハウを有する民間事業者の有効活用していただきたい。譲渡先を募集し、再開を全力で進める。

**Q** 前田小と米内沢小の統合について、PTAや住民から出された意見を踏まえ、どういう方向を考えているか。

**A** ①米内沢小学校の校名・校歌を使用する統合、②両行とも閉校し、新たな学校としてスタートする統合、③森吉中を加えた3校統合、の3案を示したが意見がまとまらなかった。よって2024年に統合する計画は、見通せない状況となっている。

**Q** 読書推進のため、大館市や鹿角市で導入している「移動図書カー」を当市でも。

**A** 研究したい。

**Q** 国家権力は、地方自治体の図書事業に介入してはならないが、先頃文部科学省が、ある特定の本を揃えるよう事務連絡をよこした。それを受けて当市はどういう対応をしたか。

**A** 通知はきたがそれには応えず、これまでと同じ選書をしている。



民間への譲渡を進める森吉山荘

佐藤 文信

(新創会)



QRコード

予算概要版で  
市政に興味を

**Q** 栗原市では、約40ページの予算概要版を発行。内容は当初予算における主な事業内訳についての説明と、合わせて財源の内訳として国、県の負担金や一般財源などの金額も明示しており、市政の基本姿勢がみられ、市民にも理解される内容であり、市政運営に興味を持ってもらう機会になると思うが、当市で発行する考えは。

**A** 市の広報で毎年公表しているが、市民の皆さんが市政運営に興味を持っていただくために、市の財政状況に関する出前講座を行っている。今後も市民のニーズに合わせて、きめ細やかな対応を図るとともに、予算の公表の在り方についても研究していく。

**Q** 遊佐町での少年議会は、20年前、

2「子どもたちの豊かな感性と生きる力を育むまち」

(1) 結婚・出産・子育てが安心してできる環境を目指します

地域子育て支援センター運営事業 7,593万円  
(担当:子育て支援課保育サービス係)

小学校入学前の乳幼児を対象に、保護者と乳幼児が一緒に利用するセンターです。子育ての悩みを保育士に相談したり、保護者同士のコミュニティの場所としても利用できます。市内10か所で運営します。

財源	国の負担額	2,519万円
	県の負担額	2,519万円
	市の負担額	2,555万円

主な事業内容と財源内訳(栗原市予算概要版)

少子高齢化の中でスタートした。年間予算は49万円で中高生のうちから町政に参加できる場を大切に、残りたい町、帰って来たい町、住みたい町を目指すよう事業を進めている。当市でも若い感性を表現できる場所作りが大切であると思うが、取り入れる考えは。

**A** 当市では、令和元年度から市内の小中学校13校の代表者で子どもサミットを開催。関係部署に是非届けたいと思う意見やアイデアも出されている。教育委員会の中に高校生が入ってくるような体制を作っていくことも今後の課題として取り組んでいく。

長崎 克彦

(清明会)



QRコード

免許を返納した  
人たちに交通手段を

**Q** 近年、免許を所持していない高齢世帯や免許を返納した人たちが多くなっている。買い物、通院などで大変生活に不便を感じている。当市で来年度に策定する「地域公共交通計画」に反映させるべきと考えらるが。

**A** 市民や主要な拠点施設を対象にしたアンケート調査の結果に基づき、その実現に向けてスピード感をもって取り組む。

**Q** 児童、生徒の減少により小中学校の統合が進んでいる。統合により活用されていない校舎建物等は、解体処分すべきと考えるが。

**A** 鷹巣西、南、合川南小、いずれも市有財産の倉庫などとして活用している。危険度が高いと判断した校舎施設は、計画的に解体する。

**Q** 西児童館は樹木、遊具等は伐採撤去され、建物だけが残っている。公民館駐車場、除雪などに支障を来しているため、早めに解体すべきと思うが。

**A** 地域からの要望もあるので、早めの解体に向け調整中である。



廃止した鷹巣西児童館

**Q** 上杉駅前分譲宅地などの物件は、どう対応しているのか。

**A** 旧合川町時代に松ヶ丘団地などの宅地造成事業を行い、現在、上杉駅前団地には、28区画の分譲地が残っている。PRは新聞折込みやホームページなど使って行っている。区画面積が大きいなどの意見もあることから、小面積区画設定をしながらの販売を検討する。

## 所管事務調査報告

総務文教常任委員会

### 小山市、佐野市を 視察研修

総務文教常任委員会では、11月1日に栃木県の小山市と佐野市で所管事務調査を行いました。

#### 災害を教訓とする取組に学ぶ

平成27年9月の台風18号による洪水被害は浸水家屋1500棟を超える大被害となり「数十年に一度」の災害となりました。しかし、4年後の令和元年10月、台風19号による線状降水帯は市内中心部の思川と豊穂川を氾濫させ、150世帯以上を浸水させ、地元の新聞は「数十年に一度・またも」と見出しを打って被害を伝えています。

そこで小山市は国や県も交えて、市議会や地元自治体、土地改良区などを構成員とする対策プロジェクトを立ち上げ、抜本的な対策を決定しました。第1は市街地地区を対象とした雨水排水施設の整備。2. 対象河川の拡幅・築堤・橋梁架け替え工事。3. 農業用水路の準用河川指定。4. 準用河川を排水路として河道整備。5. 田んぼ



被災後の取組について調査（小山市）

が持つ貯留機能を更に活用する「田んぼダム活用補助」施策等。さらには「防災集団移転促進事業」や地区を丸ごと堤防で囲い込むという「輪中堤の整備」まで必要なところに必要な対策をきめ細かく実施している最中でした。

また、佐野市では、災害時に有効的な情報伝達を行うため「災害情報共有システム」を取り入れ、災害の発生状況や避難所の開設状況、さらには開設した避難所の物資の状況まで、対策本部と担当者だけでなく、職員全員がリアルタイムで共有することで、市民に正確な情報を迅速に伝えることができ、職員も次の行動を予測しながら行動できるもので危機管理の理想像を見た思いでありました。



## 所管事務調査報告

市民福祉常任委員会

### いわき市、上山市 を視察研修

市民福祉常任委員会は、11月10日に福島県いわき市、11日に山形県上山市で所管事務調査を行いました。

#### 《出張行政サービスの先進事例》

いわき市では、高齢化や運転免許証の自主返納の普及等に伴い、移動手段の確保等が困難な市民への利便性向上に向けて、専用の車両で各地区に向いて行政サービスをを行う「お出かけ市役所」という事業の説明を受けました。

専用車両の活用方法としては、各種証明書等の申請・交付をはじめ、母子健康相談や福祉相談等の相談業務、防災訓練、将来的な移動投票所を想定した中学生による模擬選挙なども行われていました。今後は遠隔診療が可能となるヘルスケアモビリティの検討など、提供サービスの拡充や実施エリアの拡大に取り組むとのこと。 「生活利便性向上」だけではなく「暮らしの安心」を支える多様な事業であることを認識させられました。



出張行政サービス専用車（いわき市）

#### 《子ども行政一元化の先進事例》

上山市では、平成31年4月に子ども子育て課を創設し、結婚・妊娠・出産・子育ての各ライフステージに応じた切れ目のない支援を実施。一元化したことで、多様なニーズへの対応や要支援児童への迅速な支援が可能となったことなどを伺うことができました。

また、空き施設をリノベーションした「子育て支援センター」は、市内外から多くの子ども達が利用しているとのこと。子育て支援だけではなく、交流人口の増加にも寄与しているとのことでした。今回の視察を参考に、本市においても、より充実した支援ができるよう取り組んでいきます。

# 所管事務調査報告

産業建設常任委員会

## 立山町、上田市を

### 視察研修

産業建設常任委員会は、11月11日に富山県立山町、12日に長野県上田市で所管事務調査を実施しました。

#### 国際交流員の採用

立山町は「立山黒部アルペンルート」、日本一の落差を誇る「称名滝」、高さ日本一のアーチ式ダム「黒部ダム」などに、年100万人が訪れる国際的な観光地です。体制を強化するため、平成28年から国際交流員を採用し、外国人観光客への情報発信などを行っています。立山黒部アルペンルートの玄関口である立山駅では、駅前の無電柱化や駅周辺にある店舗の看板や自動販売機の色調を統一するなど景観の整備にも取り組んでいます。



観光振興の先進地視察

#### 農業デジタル人材

##### 育成プロジェクト

上田市では、J A、県、N T Tなどと連携し、「地域おこし協力隊」の制度を活用して、新規就農者をデジタル人材として育成することで持続可能な農業をめざすプロジェクトを開始しています。現地視察した農場では、研修生がキュウリ栽培を行っており、①データに基づく栽培管理、②スマートグラスを活用した遠隔営農相談、③人工知能(AI)を活用したキュウリの選別を実践していました。市では、2024年度末までに、地域おこし協力隊の新規就農者を農業デジタル人材として育成する計画でした。



上田市農業バイオセンターを視察

# 所管事務調査報告

広報特別委員会

## 栗原市を視察研修

広報特別委員会は、11月21日に宮城県栗原市で所管事務調査を実施しました。

視察の目的は、栗原市議会報の編集について、直接、話を聞くことでしたが、示唆に富んだ説明を受け、一つでも多く生かしたいと感じとってきたところです。

編集方針は「市民が読みやすく、わかりやすい、そして親しまれる議会広報を目指し、議会活動の全般にわたって、要点を的確かつ簡潔にまとめることとする」としています。

私たちが注目した点は、第1に、表紙はもちろん、それぞれの写真が素晴らしいこと。第2に二色刷りでありながら工夫されていること。第3に余白、割付け、活字の大きさなどレイアウトが優れていることなどでした。

説明によれば、表紙の写真は、担当委員が撮影した写真と市内高校の写真部から提供を受けた写真の中から委員会を選定している。



広報制作の手法について調査

二色刷りについては、調査して学び導入したもの。レイアウトについては、編集要綱に基づき編集しているとのことでした。特に活字11ポイント(20パーセント平体)に工夫の跡が見られます。

また、わが議会では原稿が集まらないとして休止した「市民の声」を栗原市議会では「私もひとこと」として毎回2人が投稿しているとのこと、議会だよりと市民との密接ぶりが感じられました。

市議会だより以外で特筆することとは、9月定例議会における一般質問者は、23人中(議長を除く)18人と市民の意見・要望がより多く届けられていることを伺い知ることができました。

# 議会の動き

<10月16日～1月15日>

10月

- 18日・広報特別委員会
- 19日・全国市議会議長会研究フォーラム
- 22日・北秋田市産業祭  
・北秋田市芸術文化功労賞・奨励賞授与式
- 26日・全国民間空港所在地都市議会協議会第102回臨時総会
- 28日・議会運営委員会
- 29日・森吉山ダム10周年記念シンポジウム
- 31日・総務文教常任委員会  
所管事務調査（～11/2）

11月

- 7日・秋田県市議会議員研修会  
・国道105号大曲・鷹巣道路整備促進フォーラム
- 8日・第2回全員協議会
- 9日・市民福祉常任委員会  
所管事務調査（～11日）  
・産業建設常任委員会  
所管事務調査（～11日）
- 11日・秋田県後期高齢者医療広域連合議会11月定例会
- 13日・議会報告会
- 14日・秋田県市議会議長会臨時会  
・秋田県知事との行政懇談会
- 21日・広報特別委員会 所管事務調査（～22日）
- 24日・小阿仁川水系対策委員会視察研修（～25日）
- 28日・議会運営委員会
- 30日・議会運営委員会

12月

- 6日・阿仁スキー場安全祈願祭
- 8日・12月定例会（初日）  
・広報特別委員会
- 12日・本会議 一般質問①
- 13日・本会議 一般質問②
- 14日・総務文教常任委員会  
・市民福祉常任委員会  
・産業建設常任委員会
- 20日・12月定例会（最終日）  
・議会運営委員会  
・第3回全員協議会
- 22日・小阿仁川水系対策委員会、小阿仁川筋ダム対策連絡協議会  
・わんぱあく開所式
- 23日・薬師山スキー場安全祈願祭

1月

- 8日・消防出初式
- 12日・広報特別委員会
- 12日・第46回新春交流会
- 13日・第16回全国どぶろく研究大会in北秋田

## 本会議の生中継や録画映像がスマートフォンやパソコンなどでご覧になれます

### パソコン

〔北秋田市ホームページ〕

操作① メニューをクリック

操作② 北秋田市議会をクリック

操作③ 市議会中継をクリック

〔議会中継のページ〕

操作④ 再生をクリック  
(本会議の生中継がご覧になれます)

### スマートフォン・タブレット

①QRコード読み取りアプリを起動して下のQRコードを読み取る

生中継・録画映像  
配信先QRコード



画面が切り替わりましたら、再生ボタンを押してください。

## 市議会へご意見をお寄せください

北秋田市議会では、議会活動の活性化を図るため、市民の皆さんのご意見を募集しています。

- 対象 市内在住又は通勤通学をしている方
- 方法 手紙、FAX、メールなど（文字で読める形式のもの）
- 公表 ホームページや広報で公表する場合があります。
- あて先 〒018-3392  
北秋田市花園町19番1号 北秋田市議会事務局
- メール gikai@city.kitaakita.akita.jp
- FAX (0186) 62-4845

《訂正》 議会だよりNo.76（令和4年11月1日号）表紙  
誤）鷹巣字北中家下 地内 正）鷹巣字下家下 地内  
訂正してお詫び申し上げます。







阿仁地区（阿仁ふるさと文化センター）



森吉地区（森吉コミュニティセンター）

## アンケートでいただいた 議会に対するご意見・ご提言

### 《議員へのご意見等》

- ▷地元の意見、要望を吸い上げる機会をつくってほしい。
- ▷市民の声が届かない（一方通行の感がある）。これからの行政は、スピードと新たなことの取り入れが必要だが、旧体制が根強い。
- ▷議員の特権は一般質問であり、効率的に30分を活用してほしい。議員の意見がほとんどで、回答時間が短い。質問を簡潔にし、内容ある回答を引き出すべき。
- ▷30年後の北秋田市を見据えた質問をしてほしい。
- ▷個々人の持ち場で頑張っておられるが、対外的視野をより広げて頑張してほしい。

### 《議会報告会へのご意見等》

- ▷「報告会にはあまり来ないだろう」ではなく「来てもらいたい」という気持ちで準備してほしい。
- ▷質問よりも個人の要望を述べる人が多い。そういった話をする場を別に設けて対処した方がいいと思う。
- ▷議員と市民が身近に感じられてよかった。
- ▷資料の内容や様式を変更してほしい。数字の内容が分かりにくい。
- ▷討議資料を何らかの媒体で事前に知らせてほしい。
- ▷質問に一生懸命答えていてよかった。

**【質問】** 避難する際、持ち物が必要となれば車での移動になるが、高齢者は車もなく、誰が面倒をみるのかも決まっていない。詳細な行動計画が必要では。

**【議員】** 高齢者が多くなっていることから、避難方法について、自主防災組織や自治会・民生委員などで連携し、対策をとるようにしたい。

### 【その他（議会報告会）】

**【質問】** イスが足りない。また、議員の名前が分からないので、名札を付けてほしい。

**【議員】** 次回は、今日の2倍を想定して準備する。名札も着用する。

**【質問】** 議会報告会が、年に1回で2時間というのは、少なく短すぎる。

**【議員】** 「報告」であれば配布物で事足りる。市民との話合いの場を増やすべき。市民との話合いの場を増やすべき。

### 【その他（空き家）】

**【質問】** 空き家が増えている。倒壊のおそれもあり、市全体で検討すべき。

**【議員】** 議会でも取り上げており、危険と判断した特定空家であれば、解体費の補助金がある。普通の空き家は個人の財産であり、勝手に手はつけられず非常に難しい。

### 【その他（森吉山荘）】

**【質問】** 陳情を採択したが、市の財政から支出して残す必要があるのか。もう一度議論をしっかりとって、迅速に対応してほしい。

**【議員】** 要望として承りました。

**【質問】** 森吉山荘は、今後、国立又は国定公園に編入されることを考えると必要な施設。今後の方向性は。

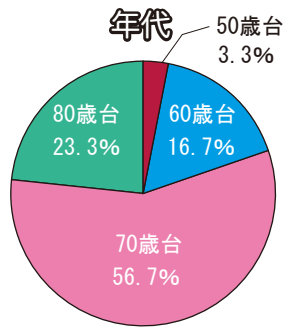
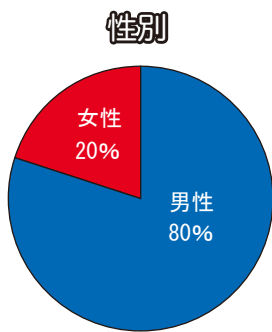
**【議員】** 先日、全員協議会が開かれ、陳情の採択の結果を踏まえ、改めて施設の存続に向け、施設の無償譲渡を条件にして経営者を募集する案が示された。ただし、応募があるかは分からない。

# 議会報告会

《アンケート結果》

## 参加者の割合

※回答 60件



Q 今回の議会報告会はどのようにして知りましたか。(複数回答可)

A 広報…43.6%、回覧板…26.9%、防災ラジオ…14.1%、議員・知人から…9.0%、ホームページ…3.8%、その他…2.6%

Q 議会報告会の内容はどうでしたか。

A わかりやすかった…43.3%、わかりにくかった…13.3%、どちらともいえない…33.3%、無回答…10.0%

Q 開催時期はどうでしたか。

A 良い…56.7%、悪い…1.7%、どちらともいえない…33.3%、いつでも良い…1.7%、無回答…6.7%

Q 議会報告会の総合評価は。

A 評価する…51.7%、評価しない…5.0%、どちらともいえない…33.3%、無回答…10.0%

Q 議会報告会に求めるテーマは。(複数回答可)

A 街づくり…26.7%、行政…23.8%、市民生活…22.9%、福祉…13.3%、財政…13.3%

Q 今後の議会報告会の開催頻度は。

A 年に1回…33.3%、年に2回…41.7%、年に3回…5.0%、年に4回…3.3%、その他…5.0%、無回答…11.7%

Q 議会を傍聴された理由、傍聴されない理由をそれぞれお聞かせください。

A (傍聴された理由) いつも見ている…3.3%、時々見ている…5.0%、提出議案に興味があった…6.7%、知っている議員の一般質問…6.7%、市政に興味がある…10.0%、自分の町に愛着がある…6.7%

(傍聴されない理由) いつ開催されているかわからない…16.7%、忙しくて見られない…16.7%、知っている議員がいない…5.0%、市議会が何をしているかわからない…5.0%、無回答…18.3%

Q 議会に関する情報は何かから得ていますか。(複数回答可)

A 議会だより…62.9%、議員…17.7%、新聞…14.5%、ホームページ…4.8%

Q 議会の印象は。

A しっかり仕事をしている…11.7%、もっと議論・討論すべき…41.7%、何をやっているかわからない…13.3%、無回答…33.3%

Q 議員の印象は。

A しっかり仕事をしている…13.3%、もっと一般質問をするべき…23.3%、話をする機会が少ない…21.7%、勉強不足だ…16.7%、何をやっているかわからない…8.3%、無回答…16.7%

当日、ご参加いただきました市民の皆様には、心よりお礼を申し上げます。皆様からいただきました貴重なご意見は、今後の議員活動に生かしていきます。

今後もより良い形式に改善しながら、議会報告会を開催してまいりますので、多数ご参加くださいますようお願いいたします。

## 議会を傍聴してみませんか

市議会では、皆さんの生活に直結した重要な問題を審議しています。開かれた議会を目指し、どなたでも本会議の傍聴が可能ですので、市議会の活動状況をぜひご覧くださいようお待ちしております。

次の定例会は3月の予定です。



委員長 五代儀義富  
副委員長 福岡由巳  
委員 佐々木正史  
委員 佐留嶋範子  
委員 中嶋洋子  
委員 佐藤文信

広報特別委員会

北秋田市議会だより  
ぎかいの杜  
令和5年2月1日  
NO.77  
編集 広報特別委員会  
発行 北秋田市議会  
〒018-8392 秋田県北秋田市花園町19番1号  
☎0186-62-6624 F.AX0186-62-4845